

## 2 プランとSDGsの関係

### (1) 持続可能な開発目標 (SDGs)

平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、すべての国が令和 12 (2030) 年までに取り組む国際社会全体の 17 の目標で構成されています。

本市は、国の公募に対して人口減少や高齢化等の地域課題解決をめざす提案を行い、平成 30 (2018) 年 6 月「SDGs 未来都市」に選定されました。

### (2) SDGs達成に向けた教育の推進

教育は、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」として位置づけられ、「教育がすべてのSDGs の基礎である」とも言われています。目標の中には、「持続可能な開発のための教育 (ESD) を通して持続可能な開発を促進するために必要な知識等を習得できるようにする」というターゲットが示されています。

ESD を基盤にしつつ、SDGs の視点を踏まえた教育を推進することで、多様な問題が絡み合い、解決が困難な現代の課題の重要性について、子どもが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育みます。

また、本プランにおいては、基本施策ごとに SDGs の目標を掲げています。



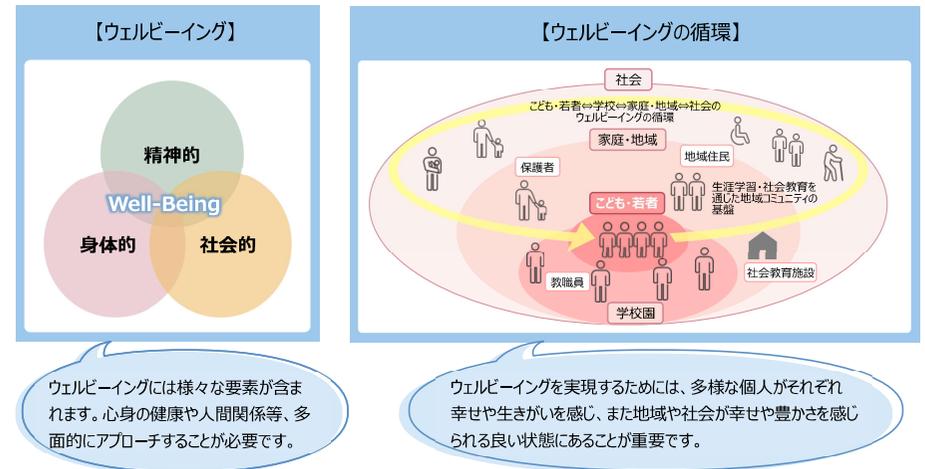
☆

## 3 基本的視点

すべての基本的方向性、基本施策を貫くものとして、3 つの基本的視点を設定しました。本プランの推進にあたり、3 つの基本的視点を踏まえ、すべての取組を進めます。

### (1) ウェルビーイング

- ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、将来にわたる持続的な幸福を含む状態を意味します。
- こどもや教職員等のウェルビーイングの向上をめざして、多様な取組を進めます。
- 日本の社会・文化的背景を踏まえ、自己肯定感や自己実現、人とのつながりや社会貢献意識等の要素を調和的・一体的に育む日本社会に根差したウェルビーイングの向上に努めます。



ウェルビーイングには様々な要素が含まれます。心身の健康や人間関係等、多面的にアプローチすることが必要です。

ウェルビーイングを実現するためには、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じ、また地域や社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることが重要です。

### ウェルビーイングの3つのポイント



#### 教職員の健康・安心

教職員が心身ともに健康な状態で、仕事と生活の両方を充実させながらウェルビーイングを確保して働くことが、教職員自身の創造性を高め、教育活動の質をより向上させることができる。



#### こどもの健やかな成長

すべてのこどもが健やかに成長し、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる。

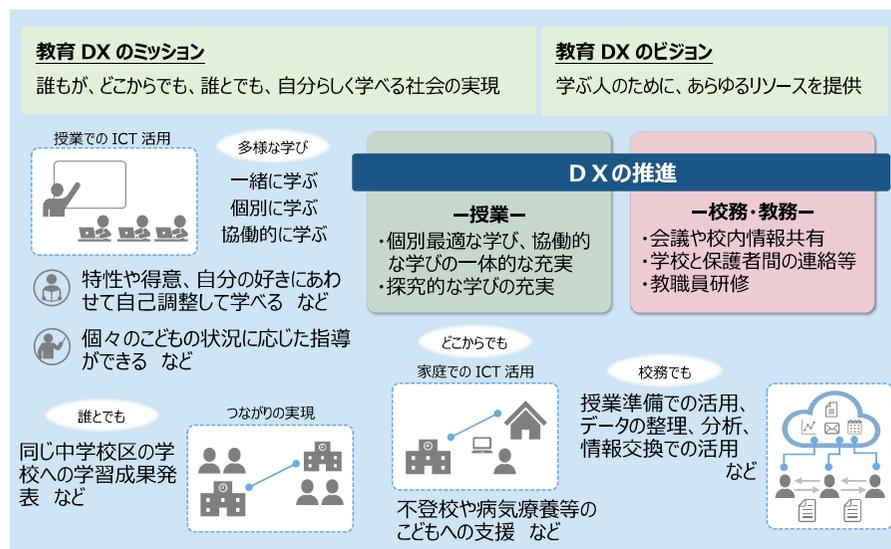


#### 地域・社会への広まり

こどもが幸せや生きがいを感じられる学びを、学校・家庭・地域がともにつくることで、こどもをはじめ学校に携わる人々のウェルビーイングを高め、地域、社会へと広げることができる。

(2) 教育DX

- 教育 DXとは教育分野におけるデジタルトランスフォーメーションをさし、ICT等を活用して、今までできなかった学習や校務・教務を実現し、時代に対応した教育を進めることです。
- 授業や校務・教務にICTを活用することで、こどもの学びや多様なこどもへの対応の充実を図ります。
- 学校園の校務・教務にICTを活用することで、効率化が進み、教職員が児童生徒と向き合う時間が増えるなど、働きやすく「働きがい」のある環境につながります。



教育 DX の 3 つのポイント



よりよい授業による  
学びの充実

児童生徒用パソコンをはじめとするICTを活用し、こどもの「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、こどもが主体的に考え、より深く学ぶ「探究的な学び」の充実をめざす。



個々のこどもに応じた  
学習保障

小さな変化や予兆を把握するための各種アンケートの実施や、学びの機会を提供する学習用教材や翻訳ツールの提供等、多様なこどもへ対応できるように効果的に活用する。

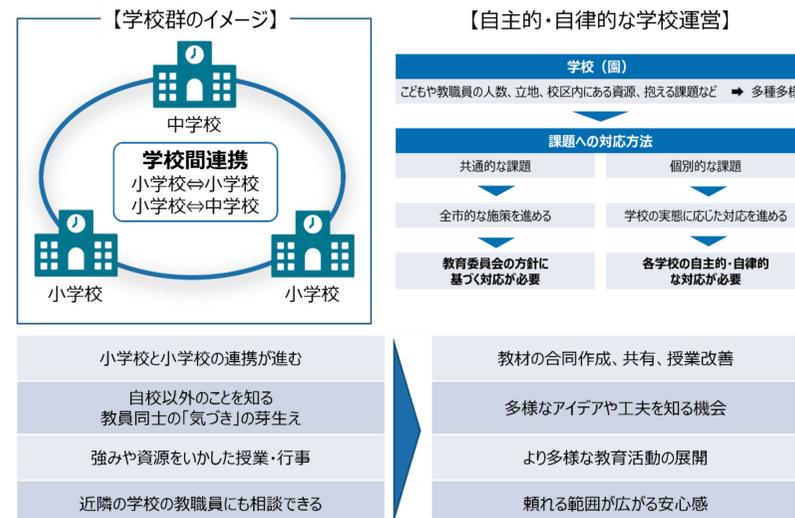


働きやすく  
「働きがい」のある学校

校務・教務の効率化、標準化を図る。採点や授業準備・教材研究等においてICTを活用し、教職員の行う業務や事務作業等の効率化、共有化を推進する。

(3) 堺が進める「新たな学校のあり方」

- 同じ中学校区にある小学校と中学校を「学校群」というひとつのチームと考え、それぞれの強みや資源を共有し、自主的・自律的な学校運営をめざします。
- 学校の教育課題に対して連携して取り組む仕組みを推進します。
- 多様な連携により、こどもたちの学びを見通した「つながる教育」を行います。



堺が進める「新たな学校のあり方」の 3 つのポイント



安心感の芽生え

異なる学校の教職員が相談しやすくなる。また、こどもたちは、早い段階から中学校の教職員や未来の同級生と関わることで、進学時の不安を和らげることができる。



多様な学びの実現

教職員同士の交流による気づきの機会をきっかけに様々なアイデアや工夫が生まれ、このことによって、こどもたちの学びの選択肢を増やすことができる。



強みや資源の活用

学校群内のそれぞれの教職員の強み（専門性や得意等）や教育資源（立地や環境等）を共有・活用することで、1 つの学校よりも広い視点で考えることができる。

第1章  
本市の教育理念・  
本市の教育目標

第2章  
教育を取り巻く  
現状と課題

第3章  
新しい学校のあり方

基本的方向性1

基本的方向性2

基本的方向性3

第4章  
推進体制

資料編